

コラム

日本の

IT

事情

Vol.8

# イラク戦争直前に 駆けめぐった チェーンメール について

—情報のゴミ・ゴミの情報 (2) —

矢野直明

サイバーリテラシー研究所代表  
(明治大学法学部客員教授)

yano@cyber-literacy.com

米英両国による単独イラク攻撃が始まりそうだと、世界中が緊迫した空気に包まれていた3月ごろ、同じ趣旨の何通かのメールが私のもとに届いた。

その1通は大略、以下のようなものだった。

アメリカの連邦議会はつい先日、イラク攻撃の判断を大統領に委任する決議を可決しました。このメールは急を要する依頼であることをご理解ください。国連の「平和についての請願書」は、対立ではなく平和を主張しています。イスラム世界が敵なのでありません。戦争は答えにはなり得ません。

今日、世界情勢はともすれば第3次世界大戦に突入しかねない危ういバランスの上に立っています。国連は現在、この世界的悲劇を回避するための署名を集めています。もしあなたがこの悲劇の可能性に対して反対であるならば、このメールを「転送」ではなく新規のメールに「コピー」して、署名リストの最後にご自分の名前を署名し、知っている限りの人に送ってください。

もし、あなたが500名以上の署名の集まったものを受け取った場合、次の2つのアドレスにそのコピーをお送りください。

usa@un.int

president@whitehouse.gov

この請願書にあなたが同意されない場合でも、できればこの請願書を他の方にも転送してください。緊急を要します。どうかご協力ください。

また、このメールを他の言語に翻訳できる方は、翻訳して同様に転送願います。

## 手を焼いた？ 国連がウェブで警告

そのあとに、原文かとも思われる同趣旨の英文が続き、フランス人とおぼしき名前を筆頭に「署名」人の名前がずらりと300人近く並んでいる。途中から日本人が加わり、最後に当のメールの差出人である知人の名があった。

このチェーンメールは、早くは昨年秋ごろから出回っていたらしい。受け取った方もかなりおられるだろう。イラク情勢が緊迫度を加えるにつれて、反戦の意思表示をしたい人々を行動に駆り立て、かなり広範囲にネットを飛び交ったと思われる。

私のところにも数通来たし、ネット上では、早くからこのチェーンメールが話題になっている。国連そのものが、いたずらに手を焼いたのか、「国連がそのような署名運動をするわけがない。もし意見があるなら、各国の政府に向かって発言すべきである」との「警告」文を出している(図-1)。こういう措置をとらざるを得ないほど、「署名」が国連に寄せられたということかもしれない。

一友人はつつい、いたずらに寄せられてしまったお詫びのメールに「実害はないと思うのですが、効果もない。今後はこういうのが来ても、考えてしまいますね。

The UN is NOT involved in soliciting or collecting such petitions. We would suggest that since it is member governments of the UN who will decide on whatever action occurs in various situations, citizens should contact their own government.

Member states of the United Nations decide on the policies and programs of the organization. Citizens wishing to express their views or concerns on any issue, such as international peace and security should consider addressing their views first to the officials of their own government. The General Assembly is the main deliberative body of the UN, where all member states have one vote, and where issues relating to peace and security, admission of new Members and budgetary measures are decided by a two-third's vote. The Security Council with 5 permanent and ten rotating member states has primary responsibility for the maintenance of international peace and security and has the power to make decisions binding on all members of the organization. Security Council Decisions on major issues require nine votes, including the concurring votes of all the permanent members: China, France, Russia, the United Kingdom and the United States. The 10 other current members of the Security Council are: Angola, Bulgaria, Cameroon, Chile, Germany, Guinea, Mexico, Pakistan, Spain and Syria.

Your inquiry and interest in the work of the United Nations are appreciated.

Permanent Missions to the United Nations  
for US Citizens: [US House of Representatives](#), [US Senate](#) and the [White House](#).

Thank you.

図-1 反戦チェーンメールに対する国連の「警告文」  
(<http://www.unicwash.org/unic%20was%20response%20to%20petition.htm>)

そういう意味では、実害があるかもしれません」と書いていた。

送られてきたメールの冒頭付近に並んでいる名前はたいてい同じだったから、「500人目になったらコピーを送ってください」という署名の集め方自体が奇妙なものだし、署名を推進する人なり、団体名が明記されていないから、責任の所在はあいまいで、ちょっと考えると、やはりおかしい。最初のころは送付先のアドレスも実在しないものだったらしい。

しかし、「開戦」前夜の緊張した状況でこのようなメールを受け取れば、思わず応じてしまうことは大いにあり得ることである。冒頭で紹介したメールを送ってきた当の知人も、「単純なチェーンメールに引っかかっちゃうのは、イラク戦争開戦目前という異常心理にとらわれているせいでしょうか?」と書いていた。ネット上に反戦の声が広がり、その一部がしかるべき公的機関に届くのなら、いたずら承知でそれに乗ってもいいかな、というふうに思った人もいるだろう。

ネットのエチケット、すなわちネチケットとして有名な Virginia Shea の「ネチケット十原則」の1つに「他人の時間とバンド幅を尊重する」というのがある。これはインターネット初期のまだ回線状況の悪い時代に、大容量の通信をすることでネットワーク全体のトラフィック(通信量)を圧迫しないよう、言ってみれば、ゴミをなすだけ出さないように、との心づかいだった。

現在では回線状況も格段に向上し、個々のパソコンが備えた記憶装置も膨大である。チェーンメールがいくら行き交おうと、それがテキスト情報である限り、トラフィック上の問題はほとんどない。

しかし、このチェーンメール、先の友人が示唆したのとはまた別の意味で、まったく実害がないともいえない。

この種のいたずらは、古くは「幸福の手紙」の例があるが、チェーンメールで目立つのは、今回の例のように、表面的に善意を装ったものである。ボランティアを募るものだったり、難病の子を救えといったものだったりする。

この話を友人たちでつくっているメーリングリストに投げかけたら、1人がこういう意見を返してくれた。

## 「善意」を飲み込む? ブラックホール

彼のところには1月下旬に第1号がやってきた。そのときはチェーンメールだとははっきり分からなかったが、それに応じることをせず、メールの差出人に以下のような返事を書いたという。

<メールの趣旨には異議ありませんが、元々の責任の所在がはっきりしないまま、いいことだからと名前を加えて転送するのは、控えるべきだと考えています。いいことだから黙って送れというのは、私たちが最も忌避してきたことではないかと感じます。したがって、私からの転送はいたしません。もしするのなら、自分の考えを自分で書いて、自分の出したい相手に出すのがいいのではないのでしょうか>

まことにあっぱれな正論である。

メーリングリストの議論で彼は「誰かにメールを送りつけ、その人から他の何人かの人にメールを送らせる。まさにコンピュータウイルスの行動です。人間がウイルス・プログラムに組み込まれているわけで、人のメールをコピーして他の人に送ることが、何か善行をしたかのような錯覚を与えるとすれば、知性の鈍磨を恐れます。プラカードを持って町に出るのは、大間違いだと考えます」と書いていた。

そうなのである。

このチェーンメールは、インターネットに放たれた膨大なゴミともいえるが、そこには多くの人の善意が乗っている。チェーンメールがそれらの善意を吸い上げて、インターネットの中の「ブラックホール」に送り込む役割をしているとすればどうだろうか。私たちがきちんと軸足を置いておくべき現実世界の行動意欲が、それによって減殺されるのだとすれば……。どこかのホームページには、たしか「(こういうチェーンメールは)人々に、実際には何もやっていないのに、何かをやったような気にさせる」という指摘もあった。

これもインターネットの、1つの、大いなるゴミ問題といえるだろう。

(平成15年4月23日受付)